

地域の糖尿病医療再生に向けたネットワークづくり ● 第1回

埼玉県利根医療圏における 糖尿病医療崩壊と再生への課題

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 東埼玉総合病院 代謝内分泌科・地域糖尿病センター
中野智紀

■利根医療圏における 地域医療の現状と課題

地域というマクロな視野に立つと、昨今の地域医療の現状と課題が浮き彫りになってくる。2006年の全国保健医療統計によると、埼玉県は人口10万人に対する医師の人数(以下、医師数)が全国47都道府県のなかで最も少ない。埼玉県は県民の平均年齢は若い一方、高齢化が急速に進んでいることも知られている。あくまでも私見だが、急速な高齢化に対し、保健・医療・福祉サービスの整備は相対的に遅れており、現在においても地域のニーズに十分に対応できているとは言えないというのが現場における実感である。

埼玉県は、医療法により9つの二次保健医療圏に区分されている。当該が位置する利根二次保健医療圏(以下、利根医療圏)は、県内で医師数が2番目に少なく、人口10万人に対する糖尿病専門医数も3番目に少ない。それでもなんとか医療体制を維持してきたが、08年度、当医療圏内の基幹病院の糖尿病専門外来が、いわゆる大学病院による専門医の引き揚げにより休

止へと追い込まれた。

全国各地で医師不足や医療崩壊が問題となっている昨今、こうした事例は、地域の1病院単独における問題ではなく地域全体の問題であり、今後、どの地域でも起こりえる。しかし、われわれは、こうした現実から目をそらし、問題点を指摘するばかりで、問題そのものや解決へ向けた議論から逃げがちである。われわれはこのような出来事を通じ初めて、地域医療の現実をいやおうでも突きつけられる形となった。

今回、筆者らはこの問題を他地域の問題解決のために活用いただけるよう、3回のシリーズに分けて、当院の糖尿病を中心とした地域医療再生へ向けた経験や取り組みを紹介していく。

■糖尿病医療の事情から見た 当院に求められる役割

当法人は、1973年に埼玉県杉戸町に開設した東埼玉総合病院(以下、当院)が母体であり、2009年2月に「社会医療法人」の認可を取得している。当院は、認可病床数193床の急性期病院であり、04年度に電子カルテ導入、08

糖コントロールの実態調査を行ったところ、結果が大変良好であったため、これを研究会で誇らしげに報告したことがあったが、当時の糖尿病専門外来は、相当数の血糖コントロール良好で安定した患者を事実上、抱えこんでいたのであった。つまり、当院は、地域の後方支援施設としての役割を十分に果たしているとはいいがたい状況であったのである。紹介率と逆紹介率も低く、外来患者数はふくれがあり、本来の主たる業務である入院患者の診療や救急搬送の受け入れに費やすための時間さえも

圧迫するようになっていた。この問題は、院内だけでなく院外へも波及する可能性がある。たとえば、地域中核病院の患者の受け入れが悪いと、実地医家も患者紹介をしにくくなり、紹介時期の遅れから、患者の治療機会が損なわれる可能性がある。糖尿病診療に置き換えれば、連携上の問題に起因するインスリン導入の時期や腎症患者への早期介入の遅れは、糖尿病合併症の発症や進展を招く恐れがある。こうした問題の根本には、医師の顔が見えないために相互の連携が円滑でないなど、

ヒューマンネットワーク上の問題が潜在しているケースが多い。

当院は社会医療法人である。大学病院や自治体病院のない利根医療圏で、地域医療の問題解決へ向けた、主導的な立場をとることが求められている。医療崩壊を目の当たりにし、深刻な医師不足のなかで地域医療を守るためには、地域の医療施設が協力し、地域全体で患者を支えていく仕組みの構築が必要であった。そこで、当院は地域医療再生へ向けて、病院完結型医療から地域完結型医療への転換を図ることを決断した。

■地域医療の本質に触れた 住民との交流と先進事例

利根医療圏の市町村の一つに菖蒲町という人口2万1000人の小さな町がある。当院では、この町で地域の保健センターと協力して糖尿病講座を定期的に開催している。講座に参加された住民との会話を通じて、「わが町」に対する愛着や、「これからも暮らしていきたい」という思いを感じとれた。保健師も住民に寄り添うように保健活動に従事している。都市部ではないこの町には、古き良き対話

年には日本医療機能評価機構による病院機能評価JCAHOの認定を受けたほか、看護師のワークシェアリング導入など、労働環境の改善にも積極的に取り組んでいる。医療機能における特徴のひとつが、日本糖尿病学会認定教育施設であること。筆者は06年度に代謝内分泌科へ赴任し、糖尿病指導医である高井孝二院長の指導の下、専門医として糖尿病を中心とした診療に従事している。

「地域に根ざさない病院はつぶれる」。大学の先輩でもある地域の医師会長から、著者が赴任当初にいただいた助言である。当時の課題をこれほど端的に表現した言葉はなく、現在の当院があるのも、こうした医師会からの温かい叱咤激励があつてこそと言える。

以前の当院は、医師会の会議や研究会、懇親会へ参加する者も少なく、地域において顔が見えない時期が長らく続いていた。実地医家(開業医)からは、「東埼玉へ患者を紹介すると戻ってこない」と揶揄されるほど、地域との関係は冷えきっていた。

今では笑い話としているが、糖尿病専門外来に通院する患者の血と支え合いによるコミュニティが残っていた。地域医療とは、「健康づくりを通じて住民の暮らしを支える町づくりである」と肌身を通じて学んだ。

また、地域医療における先進的な取り組みが行われている千葉県立東金病院への視察も行った。同院では、平井愛山院長を中心に、「わかしおネットワーク」と呼ばれる地域医療連携ネットワークを構築し、IT技術を用いたさまざまな先進的な取り組みが行われていた。この先進的な取り組みが、後述の当院におけるモデルとなったことは言うまでもないが、平井先生や東金市で活躍される医療スタッフの方々の地道な活動から、人と人をつなぐヒューマンネットワークの構築こそが地域医療の再生における最も困難かつ重要な作業であることを学んだ。

こうした経験をもとに、当院では地域糖尿病医療再生へ向けた拠点として、「地域糖尿病センター」を開設した。第2回は、「地域連携糖尿病プログラム」や「二人主治医制」の普及など、地域糖尿病センターの地域医療再生へ向けた具体的な活動内容を紹介していきたい。

DATA

社会医療法人
ジャパンメディカルアライアンス
東埼玉総合病院

埼玉県北葛飾郡杉戸町清地2-2-11
TEL: 0480-33-1311
URL: http://www.jinai.jp/
www.saitama/
病床数: 193床